

基礎医学系

教員数	教員等数 (人)	教授 21 (22)	助教授 12 (13)	講師 31 (34)	助手 5 (4)	技官〔準研〕 — (—)	
	異動状況 (人)	退職・転出 10 (6)	昇任 5 (4)	採用 4 (20)	学内 — (—)		
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数		学会発表数			
		国内	国外	国内	国外		
		75 (51)	196 (207)	324 (224)	86 (78)		
	受賞数(件)	6 (6)					
	研究費等		採択件数	採択率(%)	金額(千円)		
		科学研究費	62 (62)	43.6(44.3)	328,052(324,130)		
		学内プロ	21 (18)	35.5(35.0)	17,000(12,500)		
奨学寄附金件数・金額		18件	24,700千円	(14件	13,400千円)		
受託研究件数・金額		13件	93,760千円	(25件	278,577千円)		
	受託研究員	人 (1人)					
施設・設備							

・ () は前年度の数値を示す。

1 基礎医学系の活動

- (1) 新規採用4件、転出10件、昇任5件の人事を行った。人事のローテーションの方針が確立し、活発な人事選考が行われたと評価できる。
- (2) 国外への学術論文の発表は、例年通り、ほぼ200編の水準を維持できている。
- (3) 科学研究費補助金の採択件数は62件、総額は約3億3千万円で昨年並みの実績を維持した。
- (4) 競争的外部資金の総額は約1億円に達し、全学的にも高い水準にある。
- (5) 21世紀COEプロジェクトに採択され、プロジェクトの推進に貢献した。

2 自己評価と課題

(1) 研究活動の目標

- ① 優秀な教員の採用人事と流動的な教員配置を行う。
- ② 質の高い独創的な研究を行う。
- ③ 外部資金、競争的資金の導入に勤める。
- ④ 研究環境の整備を行う。

(2) 研究活動の評価

国外への論文発表は過去数年約200報の水準を維持できている。一方、受賞件数は6件とやや少ない。本学系からは世界的に評価されている研究成果が出ているので、国内外の知名度の高い受賞の実績を獲得することが望まれる。

科学研究費補助金の採択状況は、採択件数、総額で昨年度実績を維持した。この研究費総額は、全学では、単一学系としては最高の額である。外部資金の総額は昨年度よりやや減少しているが、これは日本学術振興会の未来開拓学術研究推進事業による大型プロジェクトの一部が終了したことにもよる。奨学寄附金の総額は増加しており、民間との共同研究も徐々に増えつつある。

研究活動に関しては、21世紀COEおよびCRESTプロジェクトが採択され、競争的外部資金の獲得に成果を挙げ、研究の成果も全体としてある程度満足すべき水準に達していると評価できるが、なお世界最高の水準を目指して、研究の質を高めるべく教員の意識を高める必要がある。

特に、国際一流誌への論文発表の伸びが停滞気味であることに鑑み、活発な情報発言に努力する必要がある。研究環境の悪化、特に研究スペースの狭隘は解決されておらず、深刻な問題となっている。